



上質な空間に映える  
ソリッドなキッチン

VILLAIR





豊かな自然に囲まれ、眺望の素晴らしい土地に建てられたセカンドハウス。施主の要望は「モダンかつラグジュアリーな家」だった。設計を手がけたのはMETAPH建築設計事務所。景色のみに視線が向かうように居住空間を敷地から張り出すように設け、雑多な景観や外からの視線を遮ってプライバシーを確保した。LDKの大きな開口部からはテラス、プール越しに神戸や大阪のパノラマを一望することができ、そのダイナミックな空間の中央にキッチンが配されている。

「建築家から伝えられたイメージは、『造形的な塊』。フォルムの基本は台形を立体化した四角錐台でした。色は奥様の好きな白で、他にはないキッチンをというオーダーでした」と語るのはキッチンのデザイン・設計を担当した今井商店の今井智仁氏。内装や家具、照明など、空間を彩る一つひとつのものに存在感があるため、キッチンは主張しすぎず、しかしありきたりではないものが求められた。

四角錐台を構成する6つの面はそれぞれ異なる大きさ・形をしていて、角度もそれぞれ異なる、まさに唯一無二のフォルム。テーブルとして使う側は、ハイチェアを置いたときに足が収まるように面の角度を調整するなど、機能性にも配慮されている。素材はワークトップのみならず、キャビネットの扉面も含めて5面すべてにコーリアン®が採用された。

「いろいろな素材がある中、言葉では表現しきれないほど複雑な形状のキッチンを、目地や継ぎ目のないひとつの塊として表現できるのはコーリアン®だけ。面と面がジョイントする角のシャープなラインも美しく仕上げることでできる加工性の高さも魅力です。コーリアン®は白色のバリエーションも豊富ですが、今

回はこっくりとした、濃度の高い質感のあるカラーを選択しました」と今井氏。複雑な形状ゆえに図面だけではどの面がどう入り込んでいくかなどを製作側に伝えることが難しかったため、実物大の模型をつくり、各面の部材のサイズや組み合わせ方も細かく指示するなどして対応したという。

「表からの見え方も大事ですが、キッチンを使う人にとっては作業側がメイン。一般的には表から見えない側は素材を変えるケースも多くありますが、ここではキャビネットの扉や引き出しの面材といった作業側もコーリアン®を採用しました」と今井氏。引き手部分はダイヤ形に仕上げ、開閉のしやすさとデザイン性を両立。5面すべてをコーリアン®とすることで、より完成度の高い「塊」を表現しているという。

空中に浮かぶかのようなLDKの大空間に映える「白い塊」は美しいオブジェのよう。ゆったりと流れる上質な時間のなかに、凜として佇んでいる。

使用色  
ミルクキーホワイト(2019年3月カタログ掲載終了色)



●設計 METAPH 建築設計事務所  
●キッチン デザイン・設計 神戸 今井商店 今井智仁  
imai@world.ocn.ne.jp  
●コーリアン® 加工協力会社 マーブル建材株式会社